



think the future from hitoshi watanabe lab.

●夢見ることができれば、それは実現できる

私の敬愛するウォルト・ディズニーの名言を、いつも思い出しながら理工学部キャンパスに通いました。

1966年、浜松から上京して下宿生活を始めてから、早稲田大学を2016年に退職するまで、ちょうど50年間をこのキャンパスで過ごしたことになります。

入学前の「夢」は、丹下健三のような建築家になることでした。入学式も卒業式も大学紛争のために執り行われなかった大学生活で、当初の夢は儂く消えました。

そのような中、大学4年生になって、池原義郎先生と中村良三さんに出会った時に、これは実現できると確信した「夢」が生まれました。形を作ることだけが建築家の役割ではないと、池原先生から言われ、人間の行動を追いかけてみないかと中村さんから誘われ、昔から生き物を観察することが大好きだった私は、人間の暮らしや行動をデザインするというのは、新しい建築の学問になるのではないかと気づきました。

それを実現させてくれる道具であるコンピュータとの出会いも、早稲田大学での仁史研究室の全く新しいアプローチでした。

常に最先端のコンピュータを研究室に導入したおかげで、人間行動のシミュレーション手法を完成させることができました。今では、実務設計プロセスでの意思決定に欠かせない手法となっていることは、池原先生の先見の明があったからだ感謝しています。

そして、この半世紀の間に、卒業論文や修士論文、さらに博士論文で、仁史研の研究の骨格を形成してくれた600名の卒業生の努力の結晶であることを、とても誇りに思っています。

写真は、たぶん1979年に31歳で専任講師になって、初めて自分の研究室を持った時に51号間17階の部屋で撮影したものだと思います。

44年前のプリントされた写真が、引き出しから出てきました（Photoshopで現像し直しましたが、）。

半世紀を過ぎた 大久保キャンパス

渡辺仁史

News Paper

第5号

2023.04.01

それは観察から始まった……人間行動と建築情報学

